

第1回乙訓圏域障がい者自立支援協議会地域生活支援部会会議録

日時 平成27年7月17日(金) 午前10時～12時

場所 乙訓保健所 講堂

出席者 地域生活支援部会委員 15人

乙訓障がい者基幹相談支援センター・キャンパス・乙訓第2ひまわり園・向日市社協障がい者地域生活支援センター・アイリス・乙訓福祉会・乙訓若竹苑・京都府立向日が丘支援学校(代)・乙訓やよい会・乙訓の障害者福祉を進める連絡会(2)・乙訓保健所福祉室・向日市障がい者支援課・長岡京市障がい福祉課(代)・大山崎町福祉課(代)

運営委員 4人 事務局 2人

欠席 NPO法人こらぼねっと京都・NPO法人てくてく

会議の公開・非公開 公開 傍聴 1人

配布資料・次第

- ・平成26年度地域生活支援部会活動報告
- ・緊急時対応についてのアンケートご協力をお願い
- ・緊急時対応アンケートの結果
- ・卒業予定生徒数と利用サービスの見込み数について(乙訓地域)

資料確認

(事務局)

・おはようございます。今日は予定通り地域生活支援部会を開かせていただきます。よろしくお願いいたします。始めに1枚目、裏側に委員名簿を載せています。第1回ということでもたまたまこの後、自己紹介をお願いしたいと思うのですが欠席の連絡をいただいている方がいます。こらぼねっとの伊藤委員は用務のため、てくてくの尾瀬委員もご欠席の連絡をいただいております。それから、向日が丘支援学校・山田委員の代わりに岩本進路部長さん、長岡京市・樋口委員の代わりに井手係長さん、大山崎町は上田委員の代わりに飯山主幹さんの方に来ていただいております。委員さんのご都合の関係で3名の方が代理で来ていただいていることをご確認ください。あと、今日が初めてなのでいくつかご連絡をさせていただきたいと思います。自立支援協議会の運営委員の方から副部長を出させていただくと内々で決めています。それはこの部会と自立支援協議会全体の連携を図るためということでご了解をお願いします。今年度につきましては奥田委員と橋本委員にこの部会の副部長をお願いしたいと思っています。よろしいでしょうか。お願いいたします。あと、部会の方は全て筆耕おこしを事務局の方でさせていただいておりますので、ICレコーダーを2ヶ所に置かせていただいております。皆様方に原稿の段階でご確認いただいた上でホームページの方にあげるようにさせていただいております。ご確認をいただく段階でご発言については点検できるようになっていることを踏まえた上でICレコーダーで記録させていただくということをご了解をお願いいたします。あと、今日は傍聴の方が来られていませんが、基本的には傍聴可ということで個人情報を取り扱うような内容以外は傍聴可となっております。今日この後もし傍聴の方が来られましたら傍聴していただくということをお願いいたします。それでは第1回の地域生活支援部会をさせていただくということで副部長さんの方お二人で進行していただきます。よろしくお願いいたします。

1. 自己紹介

(奥田委員)

・おはようございます。長岡京市社会福祉協議会障がい者地域生活支援センター「キャンパス」の奥田です。去年に引き続き副部長をさせていただきます。よろしくお願いいたします。新しい方もおられるかと思っておりますので自己紹介の方をしていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

※各自自己紹介

2. 部会長・副部会長選出

(奥田副部会長)

・副部会長は運営委員会の方からということで私と橋本委員とでさせていただくのですが、部会長の方は部会で互選ということになっています。どなたか、おられますでしょうか。他薦でも結構です。

(山本委員)

・継続性ということを考えて、坂本委員にお願いできたらと思います。

(坂本委員)

・推薦しても良いですか。森井委員、どうでしょう。

(森井委員)

・初めてなので、去年の引き続きといわれてもわからないので、坂本委員が良いのではと思っています。

(北達委員)

・それでは、坂本委員で。

(奥田委員)

・坂本委員、よろしいでしょうか。ありがとうございます。今年は本当に事前には部会長をお願いしていなかったのですが、当然打ち合わせ等を坂本委員とは何もしておりません。事務局と運営委員会の方から私と橋本委員の副部会長ということで1回目はこんな内容でという感じで打ち合わせをさせていただいていますので、今日は私の方で進めさせていただければと思います。

3. 昨年度のまとめの報告

4. 27年度の活動について

(奥田副部会長)

・新しい方もおられますので確認をさせていただき意味でちょっと読ませていただけたらと思います。

※平成26年度地域生活支援部会活動報告 1. 設置の目的、役割等 2. 昨年度までの経過 読み上げ

(日野委員)

・既に全体会も終わり同様の報告がされたということで承認事項であるとは思いますが、昨年度の議事録を読ませていただいて、ここまでで2回出てくる1の「グループホーム・ケアホームで暮らす方々の経済的な課題や夜間の安心・安全について」というところと2ページ目の最後の部分『ケアホームでの暮らしについては、「家賃補助制度」が施工された』というところですが、最後の報告書の検討の段階での議事録を読ませていただいて今日、欠席されている尾瀬委員から元々この部会でグループホームの課題を取り上げてきた経過の中で、そもそもグループホーム自体がニーズに対して足りない部分があったというそういう段階とそれから実際に入っておられる方の経済的な問題・休日の問題、このだいたい2つの柱があったという指摘があります。そして同じく尾瀬委員から前半部分がはっきり抜けた形でこの報告書の案が整理されてしまっているここを是正・修正するようなご意見が出されていたように思うのですが、結果的にはそのままの文章が残っているなという感想が連絡会の方でも出ておりました。その件について経過をお聞かせ願いたいのですが。

(奥田副部会長)

・あとの今年度の取り組みの報告のところにも係ってくる部分だと思うのですが、このグループホームのことに関しては最終まとめにどう載せていくのかというところで今言われたような指摘を尾瀬委員の方からも含めていただきました。ただ部会としてどういう方向で議論をしていくべきなのかというところまでなかなか会議の場では話をこちらの方の不手際で詰められなかったもので、少しふんわりというか「議論ができていません。」という書き方にまとめとしてはさせていただいたような形になっています。

(日野委員)

・当事者側から見てもやはり絶対的に入所施設あるいはグループホーム等の不足ということが切実な問題としてありますので、もう少し現実に即した整理をしていただきたかったというのが思いとしてございます。これは報告は報告として今後部会ではグループホームについて問題の一部のみを云々するのではなく、根本的な問題について課題として取り上げていただくようお願い申し上げます。

(高畑委員)

・去年参加させていただいて、たくさんの論議・議題があって積み残しがあったというのが出てきたと思います。実際、どういう状態、ニーズというか当事者達がどういうことで困っているのか、家族がどういうことで困っているのかということで、まずそのイメージを共有させようかということで、去年においてはその論議が先行した感があったと思います。私も初めて参加していっぱい積み残しがあるけれども、それでもひとつでもできたという成果として私はひとつにはこの緊急時の対応のアンケートができたことは大きな前進かなという風に思っています。その論議をいくつかしていかないといけない問題としたら今言われたみたいなグループホームの問題、生活介護が足りない問題が去年もありましたように市から申し入れて乙訓福祉施設事務組合の空いたスペース、一時のところにもしかしたら生活介護のスペースができないだろうかというような話も持ち上がったと思うので、その辺の、それ以降の会議が終わった後の経過も知りたいというのはあります。それを今年度その足りないと言われる生活介護の施設の部分の比重が大きければその論議というのもありますし、優先課題や順番もあると思うので、それが解決できているということであればいわゆる長期的な緊急時の問題の対応策を論議していったら良いのではないかなという風に一年間通して思ってきました。グループホームに関してはこの前、相談支援部会で意見を出されていたのですが、毎回質問というかQ&Aみたいにしてグループホームはどういう風にしていったら良いのか等を短時間でも良いので、こういう事に困っているというのを出していただいて、そういうことに関して論議するような時間を持っていただきたいと思います。30分ぐらいという形で残っている課題、積み残している課題をQ&Aという形で論議していただいたらどうかなという風に感じました。確かに緊急対応の困っている実態というのをまとめていくというのは難しいと思います。長くなりますが、「平成19年度の厚生労働省障害者保健福祉推進事業の障害者自立支援研究プロジェクト」の中の地域で生活する、これは精神だけに限らず他もあると思うのですが、「精神障害者の緊急対応ニーズに関する調査」というのをダウンロードさせていただきました。それを見ていたら提言として「緊急対応を充実させるために今後必要なこと」というので、普段からの対策ということと心理教育、啓発活動、予防対応というので人材育成と配置というのが重要だろうということとか、日中の相談、定期訪問というのでそういう相談や訪問ができるような人材配置が必要なのではないかということと地域連携という形で病院提携、診察提携、医療、福祉、公的機関等そういう形の提携が必要だろうというようなことが必要なこととして提言されていました。緊急時の対策としては夜間休日の電話相談、緊急時の訪問というようなものが必要ではないかというようなことが提言の中に入っていました。実際、他の知的・身体障がい者の方にしてもそうですが現実、親が困った時、とことんバテて子どもの面倒が見られなかった時に子どもは直ぐに簡単にショートステイに行くわけにはいきません。いわゆる知っているところでなければいけないし、例えばうちの娘だとアスロード等に行っていないのでいきなりショートステイはお借りできないということもあって、そうしたらどこへ行くのかという相談もあります。そういう部分で周知徹底する場所を全員の共有として精神の場合だとここ、知的の場合でもこういう事業所だったら事業所に問い合わせたらわかるというようなノウハウというかQ&Aみたいな形でのものをいくらか、知的の方と精神の方の実際の意見の中から出してもらい、そういうような対応策というのを出していったら少しは前進するのではないかなというのを感じました。去年の感想と共に今年やっていただきたいことはそういうことかなという風に思っています。グループホームに関しては30分なり、新しい経過の中で入れていただくとか、他にも積み残し等があるのでそれを全部使わずに、毎回各時間とっていただくという風にしていただけたらありがたいと思います。以上です。

(北達委員)

・先程の日野委員からのご意見は「経済的」というところがそもそも一部であって、一番の問題はグループホームがそもそもない、絶対的に足りないということでした。その確認があっただけで、連絡会が今年度のテーマとしてそれを一番に希望しているというわけではないです。今年度のテーマとしては、前任の委員さんからも「緊急時の対応」を是非

今年度のテーマとしても引き続きあげてほしいと言われておりますし、私個人も昨年度せっかく労力を使ってアンケートをしていただいておりますので、アンケート結果の公表だけで終わらずに、そこから本当に一歩でも当事者や家族の安心感に繋がるような議論をしていただきたいと思います。高畑委員に言っていただいたように時点によって色々と状況も変わってくるかと思っておりますので、少なくともここには一番最新の情報が集まるようにしてほしいかなと思います。ここの議論がここの議論に終始していて、実際の施策等にリンクしていないということではあまりにもむなしなので、部分的にQ&Aなり、現状の報告等、そういう場面を作っていただきたいと思います。

(奥田副部長)

・グループホームのことは今言っていただいた通り、開設自体が消防法や関係法令の改正であったりということで認可型が難しくなっていたりだとか、そうしたら土地を取得するとなるとその後の運営自体がそもそもの報酬単価が低くて経営自体がそもそも苦しいところが多かったりということではなかなかグループホームが増えない。その時の議論には出ていなかったのですが、やはり夜勤というところでは介護人材であったりなどの課題もあるのかなあという風に、今回この会議の前にまとめをもう一度読んでいたのですが尾瀬委員に言われていた部分、それから24年度・25年度のまとめに書いていた部分で言うと色んな課題があって、これがあるからということだけではなくということでは私も感じているところではあります。ここの場というのは今言っていただいたとおり決定機関でもなく、諮問機関でもなく圏域の課題、障がいのある人に対する色々なことについての圏域での課題について協議する場であるということなので、今まで以上にこの場で議論されたことが行政さんが色々決めていく上で、ひとつでも上手く活用していただけたらと私も思っているところではあります。次に進ませてもらっても良いでしょうか。

3. 今年度の取り組み状況ですが、26年度についてはあとで協議内容というところから出てくるのですがワーキングチームというのをさせていただきました。今、出ていましたが緊急時の対応アンケートということでもさせていただきました、実は予想をかなり上回る300件を超える回答をいただきました。やはり緊急ということについては凄く関心が高いということに改めて感じたところではあります。その集計に少し手間取ってしまったということもあって部会については3回しか開催できませんでした。ワーキングチームというところでは合計で4回開催させてもらっています。アンケートの中身についてどういう風なことをするかという協議から集計作業をさせていただきました。

4. 今年度の協議内容のところにかかせてもらいます。

※平成26年度地域生活支援部会活動報告 4. 今年度の協議内容 読み上げ

(奥田副部長)

・何かご意見・ご質問はありますか。

(向日が丘支援学校・山田委員代理)

・古い情報提供をしていて①については生活介護4名の方の内1名の方が入所施設に決められましたので生活介護が3名・入所施設が2名ということで訂正をお願いします。昨年度につきましては皆さん希望する進路先の方に進路が決まることができました。

②の就労継続支援B型事業所に関わるアセスメントのことで向日が丘支援学校の方からひとつお話ししたいことがあります。本年度初めてということで実際に1学期の体験実習にアセスメントをしていただきまして、そして今結果をいただき、またそれを本人・保護者に返すという段階なのですが、本年度始まりまして問題点がいくつかあるのですが、それを相談するところがなく、そのまま進んでいるという状況があります。昨年度は準備会ということで大変各関係機関の方にもお世話になりまして、本校で高等部職員・保護者の方に説明会という形を実施していただいたわけなのですがぜひとも今年度の課題であり、まとめといったものが関係者の方で集まって検討できるよう、そういった場をぜひともお願いしたいと思っています。以上です。

(高畑委員)

・何回も申し訳ないです。今の①と②も含めて、これも報告だけで終わっているという現状があって、その部分もどういふ風に先程の今後の1年間の進めと課題の中でこれをグループホームのことも含めてどういふ風にするのか皆さんで

色んな課題があるのでこれは報告だけですが、今言われた「相談するところがない」のであれば、その部分でやはり別のワーキングチームでアセスメントのことが必要なのであれば作る等そういう論議があっても良いかと思います。それは運営委員会にお任せすることが良いのかどうか一旦、部会長にお預けして、その比重、メリハリのある部分を検討していただきたいなと思います。私はわからないのですが、例えば乙訓福祉施設事務組合に対して圏域で不足している生活介護を増やしてほしいという要望で結論がどうなったのか。あと実際、生活介護が今後がずっといけるのか全く知りません。その部分がわかりません。そうしたら、どの辺が困っているのか、本当に切実なのかということが私の方にはあまり伝わってこなくて、去年の委員さんが言われたので現実わかった問題がありました。そういうことをもしも引き続きやるのであれば、そのことも新しい事務所というのが無理であれば乙訓福祉施設事務組合の部分でお借りすることができるのかという話がどうなったか。その論議の場を1回ワーキングチームで持つとか、そのアセスメントも報告だけでなく、そういう相談のワーキングチームを持つ等そういう案も持ってしかるべきかと思います。ただ、時間の関係でどれを優先するかはお任せしますが、ちょっとその辺の減り張りというのか論議の時間、去年感じたのがいっぱい残ってしまうので、希望があっても入れられないというのか優先課題がいっぱいあって入れにくいです。そういう問題があるのでまず緊急の部分のところで普段の委員会以外のところでできること・できないことというのを整理していただけたら、この年4回程の会議の中でどうということが論議できるかという形も見えてくるかと思います。まだ2年なので全くわかりません。本当に自立支援協議会の有り様も含めてわからないのに勝手なことばかり言っていますが、ちょっとその辺も論議の時間を整理していただけたら、もう少しそれぞれのスポットがあたった生活介護やアセスメント、グループホーム等のことが積み残しにならないかという気がするので、一言お願いしたいと思います。

(奥田副部会長)

・今言われていた、去年少しお話が出ていた乙訓福祉施設事務組合さんの方で生活介護をやって欲しいというのは市の方から申し入れはされていたのですが、そのことについてももし何か進んでいてお話しできることがあれば今聞いても大丈夫でしょうか。

(乙訓若竹苑・山田委員)

・お答えできる範囲でしかお伝えできないのですが7月半ばに運営協議会、2市1町と乙訓福祉施設事務組合との話し合いがありました。地域での課題である生活介護のことは前々から聞かせていただいています。それに絡めて、若竹苑の課題として何があるのかというところの整理も含めて話し合いがもたれました。継続37名おられますが、実際お仕事ができなくて職員が個別的な対応をさせていただいているケースが増えてきています。加齢と共にお仕事が難しい方も増えてきています。地域活動で週5・週4と来られている方の課題があります。それに含めて送迎の問題もあります。若竹苑自体が抱えている課題が多々出てきました。その中で地域課題も含めて短期的な課題、今後考えていく課題を話し合う場が持たれたのですがお伝えできるところとして、平成27年度に関しては来年度新たな定員・事業の変更等をするのではなくて、1年間かけてもう一度地域の課題と若竹苑の課題含めて考えていかないとけないといった話し合いになっています。

(奥田副部会長)

・よろしいでしょうか。今言われていた就労のB型に行かれる方のアセスメントのことについてですが、準備の段階では保健所さんの方で進めていただいたというような経過があったのですが、これからどういう風に進んでいくのか。1回目はみんなが初めてだったので、通っておられる生徒の話でもあるので、どうしても学校さんが主になって動いていただいていたところが多かったかなと思っているのですが、その辺はどこが主になるのでしょうか。

(上田委員代理)

・今年の実施に向けて、ここにもあるように2市1町・支援校さん・相談支援事業所・就労移行支援事業所・乙訓保健所さんで協議をしていたので、27年度、今回始まって出てきた課題、今、岩本先生がおっしゃっていたことはまた当初集まっていた関係機関でその課題を整理したら良いかと思っています。前年度は保健所さんが中心に声かけをしてくださっていたので、そこが引き続き保健所さんに声かけをしてもらうのかというところがありますが、メンバーとしてはこのメンバーであがった課題整理をすれば良いかなという意識ではあります。

(向日が丘支援学校・山田委員代理)

・向日が丘支援学校ではこのアセスメントについての窓口は夏川の方が担当させていただいております。ただ、夏川の方も実際に色んな問題が出た時にその対応については大変苦労しておりまして、やはりどこかの事業所さん等にも相談もさせていただいているのですが、それが全体のものにもなっていないかったり、その場その場で対応するという事はなかなか大変なので、何らかの形でそういった集まりというものが定期的にでもしていただけるのであれば、そこでまた意見交換等もできるかと思うので、今始まってみて実際にもうだいぶ進んでいるのですが、その間に何もなかったということが実はすごく戸惑っているところです。ぜひともまた、どこかのところで集まりをしていただければと思います。

(上田委員代理)

・大山崎の方では個別の案件でお困りごとの相談を受けていなかったのも、おっしゃっているような個別の対応の中で解決できるような話、全体の枠組み的なことや2市1町含めて皆で共通認識しないといけないような課題だとおっしゃっているように、僕の感覚だと年度末ぐらいに「1年やって、こういう事も課題である。」と反省会的にやれば良いのかなという認識だったのですが、そういうのではなくて今やっている中でも色んな不具合が出ていて軌道修正もいる等、一定緊急性があるのであれば、おっしゃっているように集まる機会を設けないといけないかと思うので、ちょっとその辺のお困り感というのが僕自身キャッチできていなかったのも、今お話を聞かせてもらったのも、またこの関係メンバーを言うので集まる必要があるのであればしていかないといけないかと思うので、それはそういう方向で考えれば良いのかなと思います。

(向日が丘支援学校・山田委員代理)

・向日が丘としましてはどこにそういったことをまず相談したら良いのかがわかりません。保健所さんなのか、それともそういった関係機関の行政さんなのか、それとも今ステージさんが中心にさせていただいているのですが、そういったところでリーダーシップをとっていただけたところが実はどこなのかというのがわからないのです。そこがわかれば相談もしていけるし、全員が必ずしも集まって確認をしなければいけないということも場合によってはそんなに多くはないと思いますが、ただ今のままでは始まってしまってそういった部分と先程私が言わせていただいた、まとめ・課題を必ずそこで総括するという部分で言うと時期的にはもう少し後になるのですが、本当に実際どこがそれを開催してもらえるのかがよくわからないというのが気になるところです。

(日野委員)

・議事進行についてなのですが、今やっているのは昨年度のまとめの報告だと思います。口火を切ってしまったのが私なので申し訳ないのですが、いわばこの報告文に沿って色んな方からご意見が出て、気になるところを抽出してポイント的に出させていただくのは良いと思うのですが、その詳細というか次の「4. 27年度の活動について」で今色んなご意見が出て、アセスメントの困りについても具体的なことがわからないままお話が進んでいますので、全体で共有できないまま意見が色々出てきているところがあるように思います。一応、文章として出ている報告、「昨年度のまとめの報告」ということで気になるところ、疑問点というところで絞ることにして課題について、今まで出されたご意見を整理していかれてはどうでしょうか。

(奥田副部長)

・ありがとうございます。そのようにさせていただいてよろしいですか。それでは5番目のところに入らせていただきます。

※平成26年度地域生活支援部会活動報告 5. 次年度の課題と方針 読み上げ

(奥田副部長)

・緊急時のアンケートということについてはその後に「アンケートのお願い」という文章と「アンケートの中身」が付けてあります。昨年おられなかった方もおられるかと思いますが「緊急時についてのアンケート」ということで、「どなたから回答をいただいているか」、「障がいがある方の年代と障がいの状況」、「一緒に住まわれている方」をお聞きしました。文中に出てきたのですが、26年度、数として取りまとめをさせてもらったのが「今まであった、『困った。』『緊

急だった。』ことについて」というところですか。書き方としては「いつ」、「誰が」、「どういう状況になり」、「どう困ったのか」、「どのように対応されたのか。」、「その時にどのような支援があれば助かったか」について自由記述で書いていただくような中身のアンケートになっています。あと、全く集計ができていないと言っていました、「6. 今後起こりうる緊急時の対応として、希望されること（「こんな援助があれば安心。」など）」について自由記述で書いていただくような中身になっています。26年度まとめた中身については次のページに移っていただいたら「緊急時対応アンケートの結果」ということで中間のまとめということなのですが、全ケースが324件、枚数としては306枚、1枚に複数のケースもあったので324ケースということでもまとめさせてもらっています。このアンケートをとるにあたって「緊急」というところを「家族等の理由で、本人の生活基盤が揺らぐ事態について」ということで定義をさせていただいたので、「本人さんのケース」というのが一番右側に書いてありますが、「本人さんの障がいや病気、けが、事故等により支援が必要となる場合」については今回の主たる検討対象というところからは26年度については外していました。一番左側の①・②の部分ですが「緊急対応」ということで「すぐに対応しなくてはいけない事態である。緊急時対応」、「主たる介護者が、病気、けが、事故等により介護できなくなった場合」、「家族だけでは、対応できず、福祉の支援がその場ですぐに必要になった場合」、中でも「対応周知の課題」というか「事態の発生から、相談をする時間、対応する時間がある場合」もあるということでその括弧にさせてもらっています。「利用者さんであったりご家族が利用できる福祉制度を知らなかった場合」、「相談する場所がわからなかった場合」、「相談しないで、辛抱してしまっていた場合」というようなまとめ方にさせていただいています。それから、「その他」ということですが色んなことを書いていただいていたので「その他」ということでまとめさせてもらっています。ひとつは強力性のインフルエンザがはやった年のことを書かれていたのですが、「本人さんはインフルエンザにかかっていないけれども出席停止になって、ヘルパー事業所や実家に頼んで対応した。」、「お母さんが通院されて、緊急入院となり、下校の迎えのバスに間に合わなくなったのですが、お父さんが仕事を切り上げられて迎えに行くことができた。」というようなケースについては「その他」というまとめにさせていただいています。実際にいただいた回答は今現在エクセルのシートの方に1件ずつ打っていただいている情報として持っているような状態です。A4ですが、それぞれ5番目・6番目、空白のところもあるのですが8枚ぐらいの紙になっています。今日は資料としては付けていないのですが、今後また検討にあたってはこのような資料も目を通していただきながら、どのように、まとめといいますか、先程から意見がありましたように、「対応周知」ということに関しては何かQ&Aのようなもの、「どこに連絡したら良いのかがわからない」ということに関しては連絡先がわかるようなものであったり、あとは「緊急時の対応」として「どうあってほしかったのか」ということに関しては6番目の質問の部分、「こんな援助があれば安心」というようなところの検討の材料として使っていければ良いのかなという風に考えています。部会長、何か補足はありますか。

(部会長)

・昨年度からも関わらせていただいたところで、その中で「対応周知の課題」という部分のところで、事前に準備ができたのではないかとというケースもあったということでそういった部分のところの情報を事前に知らせておくことによって、今まではその時になって初めて「どうしよう」ということで緊急であると捉えられているご家族さんもあるかなということでこういう風に準備をしておけばそういう状況に陥った時も対応ができるのではないかとというところの情報をまとめて情報提供できたということでも対応周知の課題という部分のところの話としてまとめられたということです。まだ、ここの部分のところについてはそういうことをまとめた上でどういう形でその情報をご家族に伝えていくのかという部分についてはまだ検討段階ということで、まだ資料がたくさんあるということの中でそれも引き続き今年度の課題としてあげておこうということでも昨年度からの引き継ぎ事項ということであがっています。

(奥田副部会長)

・この緊急時のアンケートのことについての取りまとめと言いますか、今後の方向性については部会の方で確認をさせていただきながら作業を進めさせていただくことになると思うのですが、部会の日程だけではそのような作業はなかなかできませんので、昨年と同様にワーキングチームという形でその議論を深めるような作業をさせていただきたいと思っていますのですが如何でしょうか。

(日野委員)

・去年、ワーキングチームというのがあったということは議事録でわかったのですが、ワーキングチームのメンバーはどうなっていたのでしょうか。

(奥田副部長)

・ワーキングチームのメンバーですが当事者委員の方、尾瀬委員(てくてく)、伊藤委員(こらぼねっと)、部会長・副部会長、事務局として長藤GMに入っていました。

(上田委員代理)

・行政も入っていました。

(日野委員)

・今年度も同様ということでしょうか。

(奥田副部長)

・今年度のメンバーについても同様で良いのかどうかについても、ここでご確認させていただけたらと思っています。部会ではなくて、ワーキングチームをするということに関しては良いですか。

(日野委員)

・時間が足りないということだと思うので、それは当然必要だろうと思っています。ただ、メンバーについてですが基本ラインとして当事者等々のラインナップが出てきたのだと思いますが、本来であれば情報共有・理解共有をこの部会全体としてとっていくべきだと思うので、あまり線引きをしない方が良く個人的には思っています。強制力を持つか否かというところで曖昧になってはいけないということもあるのかもしれないのですが、できる限り全体の場合共有するようにメンバーについては考えていただきたいと思います。厳密な線引きが本当に必要なのかということです。

(奥田副部長)

・他にご意見ございませんか。ないようでしたら、ワーキングチームに関しても特にメンバーを限らずに、この部会のメンバーの方は来ていただきたいということで進めさせていただいてもよろしいですか。では、そのようにさせていただきますので、よろしくをお願いします。

(日野委員)

・ただ、当然ながらチームとしてのまとめ役というのは責任を持つポジションというのは必要だと思います。

(奥田副部長)

・部会の中のワーキングチームになりますので、そこも部会長が取りまとめということで、我々が必要な作業についてはやります。

(日野委員)

・わかりました。

(奥田副部長)

・先程ちょっと途中になったのですが就労のアセスメントの会議については今年度は一定、就労移行支援事業所さんでのアセスメントというのは終わって、また会議も学校さんの方で招集していただいて、そこは一人一人の方のことについてということにもなってくると思うのですが、今年度、会議という形で集めていただく方が良いでしょうか。

(向日が丘支援学校・山田委員代理)

・その部分で言いますと昨年度は保健所さんを中心に学校も入らせてはいただいているのですがアセスメントそのものは学校が企画したり、立案したり、運営するものではないので、そういう認識であるのですが、ただ実際に学校も色々なところで調整をさせていただくということで協力をさせていただいているのですが、先程もありましたようにまとめ役というかその中心になっていただける方がないことには学校としましてもアセスメントに関しては学校がまとめ役ではないので、そこははっきりとしていただきたいと思います。どこか良い時期にまとめの課題も含めた集まりをしていただけるとありがたいです。

(吉川委員)

・昨年度ですが、就労Bの特別支援学校在校生に対する就労移行支援事業所によるアセスメント実施についてということで保健所の野々口委員が第3回部会の1月23日の時に実施スケジュール案というのを作ってくださっています。こ

の時にここでも議論がされていて、これはあくまでも案だったので結果どうなったかというのも私個人的にはどうなっていくのかなあというイメージだけで、担当の方がいらっしゃらないというのもあって、1年生で体験実習をされて、2年生でも体験実習があって、2年生の2月ぐらい、昨年度だと2月に保護者会説明会が市町、計画相談支援事業所、就労移行支援事業所でされて、27年3月に進路相談を開始していることになっており、あくまでも福祉就労になるので支給決定は市町ということになっていて、たぶん個別になるのだと思いますが、福祉就労サービスをご利用になられるということで、もちろん就労移行支援事業所・ステージさんも入っておられると思いますし、ピオニーさんもいらっしゃいますし、他の就労移行支援事業所さんも入っているかもしれないですが、計画相談支援事業所ももちろんプランを作っていくかといけないので個人の方というか生徒さんに関わっていくので個別の課題等でしたら計画相談のプランを作っていく中で関係者等によって、今現状こうで、こういう課題が出てきて、でも個別の課題ではない、わからない地域の課題等が出てきた時には住んでおられる市町さんに相談していく中で計画相談もそうですがひとつひとつ丁寧に関わっていくことなのかなというイメージです。先程、飯山運営委員がおっしゃったように27年度今年1年間やってみて中間報告も良いと思います。まとめや課題というのは協議していただくことになったら良いのですが、どこがでなくて支給決定は市町がされることになっているので、その中で関わっている方の関係者会議等を積み重ねていくイメージなのかなと私個人的にはそう思っています。学校の課題ももちろんあると思うのですが福祉サービスの課題と言いますか繋ぎとか上手いことしていない部分があるのかというのは皆それぞれ違うと思います。その中で学校側の課題と福祉側の課題がこういうのがあってということでもとめるところがどこのかというのはわかりませんが、皆それぞれのお住まいの行政さんになったり、一緒に相談していくんだらうなというイメージがあります。あくまでも案を作っていたら、この時もおっしゃっていたのですが京都市や山城北圏域では独自にそういう色んな取り組みをされているというのはあったので、もしわかりにくい部分があればもちろん京都市さんや山城北圏域さん等で実際にやっておられるところ等から地域生活支援部会としてお話を聞く等そういう場面も持っていただいたら良いのかなと思います。まだ途中の段階なのでどうということが課題としてたくさんあるとは思いますが、それぞれ違う課題かもしれないので、それは学校さんの方で個別にあげていただいて、その中で相談していくイメージなのかなと私の中では思うのですが。

(向日が丘支援学校・山田委員代理)

・私の説明が不十分なのかもしれません。

(吉川委員)

・ごめんなさい。私の理解が間違っているのかもしれませんが今年からの委員さんもおられると思うので、こういうメモ書きもしているのですが野々口委員から出していただいたスケジュールを確認していくというか、あくまで案で出していただいたので、そこはこの部会でなのかどうかはわかりませんが確認や今の進捗状況がどうなのか先生からいただきながら、これはこういう風にやれば良いのではないかとこの中で皆で共有できれば良いのではないかと思います。もちろん支援学校だけの責任でもないのでも皆でここで決定はできないですが議論をしていったり、こういうことを他のところではやっておられる等、こちら圏域の在中の方でも京都市内の方に行っておられる方もたくさんおられ、私達もそういう方のところに出向くことも多いので色々な情報を集めて皆で共有したら良いのかなという風に思いました。

(向日が丘支援学校・山田委員代理)

・実は7月の末にも個々の生徒についてはアセスメントでの集まり等に学校でも声を掛けさせてもらっており、あります。そういう部分は物凄く先程から言っていたので、その部分は実際に現在進行中です。ただ私の言い方が上手く言えなかったのですが、昨年度、野々口委員がやってくださっていた準備のためのアセスメントの部会を立ち上げていただいて、そして実際に今そういう状況で進んでいるのですが、この後がどうなるのかは実は学校はわからないというのが正直なところなので、そういった集まる部会を全体で例えば年度末の終わりにでもしていただけるのか、それともこの場がそういったアセスメントの場なのか、今のお話ですと私はアセスメントに関わるそういった部会のようなものが年度末にはしていただけるのではないかと考えているのですが、どうなのでしょう。

(北達委員)

・去年、参加していないのでちょっと話が見えないのですが、最初聞いていると凄く緊急性があって、ぜひこの場で何

か制度について、システム作りに問題があるというような発言だったと思ったのですが、テンションがだんだんと下がってきて、話としては年度末でも良いみたいになってきて、皆さんがやっていただけたらみたいな話に変わってきたので、余計に話が見えなくなってきました。緊急的なものであればこの機会を借りて発案されて「会議をしていただけませんか。」と言われて、それに向って進まれたら良いのではないのでしょうか。

(向日が丘支援学校・山田委員代理)

・一番最初に言ったことと同じことを言うかもしれませんが、相談をする場所が今ありません。課題やまとめを今年度どこかでしていただきたい。そういった意味では例えばこの7月とは言いませんが、できれば早い段階で一度、昨年度のアセスメントで集まっていた関係機関の方には一度、途中の経過も含めて、また状況を知っていただくという意味で集まりの場を作っていただければという風に思います。

(乙訓保健所・山本委員)

・たぶん保健所に求められているのだと思います。私も経過を聞いていたわけではないので今ずっと聞いていたのですが、今アセスメントの部会がどんな形でやられているのかが見えないので、それ自体が組織体としてあるのかも含めてよくわからないので、この場でお返事のしようもないのですが、おそらく保健所が集めるということについてはこのメンバーの中では一番適している立場にあるのかと思いますので、ちょっとその延長線上で前年度の野々口委員の方に聞きまして何らかの形で学校さんの方のご希望に添えるようにということで、とりあえず集まってもらえる場を設定することについては関係者の方もご意義はないかと思います。誰がまとめるか等のところまでは今お聞きしている中身だけではわからないですが、一応その方向で考えたいと思います。

(向日が丘支援学校・山田委員代理)

・よろしくをお願いします。

(北達委員)

・肝心のこの地域生活支援部会の課題の件はどうなのでしょう。

(日野委員)

・私が最初に申し上げたのは現に文言となっていることについて、これで本当に良かったのかということもあるということなのでこの場で確認を求めたにすぎません。今年度の課題については他にも色々なご意見が出ていましたので、それらを押さえながら改めて全体で今考えるべきだと思っています。

(北達委員)

・では、緊急時対応にとって何が必要なのかという点を少しでもこの場で議論して確認してというのでどうですか。

(日野委員)

・でも緊急時対応に今年度終始するわけですか？もちろん引き続いてということは理解していますが。

(奥田委員)

・まとめの文章の中にも出てきていますが「緊急時対応アンケートについて」ということと「進路」というところは毎年当然あるので、その中で昨年度までは生活介護というところが課題になっていました。進路のことについては今年、また後で状況のお話をいただくのですが、そのところを含めてまた新たに何か出てくるのかということもあるかと思えます。グループホームについてということも先程お話しがりましたが金銭的な部分だけではなく、そもそも開設が少ない、入所施設がそもそも足りているのかということも課題としてはあるのだと思います。その中で今ちょっとお話もいただきましたが緊急時対応アンケートというところだけ多くの部会の中で今年1年やっていく大きな課題にはなるので、ワーキングチームというところで整理もしていくのですが、それ以外のことについて皆さんの方から何かご提案があればお聞きした上でお話を進めさせていただければと思います。

(高畑委員)

・もしも今年度に入れて欲しいということであれば提案していただければ良いと思います。昨年思ったのですがわからないけれど緊急時対応が必要ということで話が出て、それが進んだということは声があがったことにおいて、それが具体化していったという部分があると思うので、ここでは議題は声があがったものを緊急であろうがなかろうが

論議する形でももちろん全部緊急ではあるのですが、論議するというのが前提ですから今のアンケートだけを中心にするということではないと思うので意見として出されてはどうかと思います。私は本当に期間が短い中でやる集約の仕方がどうすれば良いのかと思います。学校の先生から言われた中身だったら、吉川委員が言われたみたいに第3回でされているこの報告というのがちょうど今年の1月に受けています。それでもアセスメントの中身で言うとなかなか私達わからない部分があったのでやはり途中経過を知らせてほしい、今緊急だったら今新たに持ってほしいという話があったので、その後やはり経過を発言してほしいというシステムで、要は違うところでやられてもその結果をここへ集約して持ってくるというのさえ確認しておけば良いのではないかと思います。その他のことに関してですがグループホームというのは私は生活の緊急性の中でも必要な部分もあると思います。現実問題として後から出てくる部分としてもあるかと思っています。関連性があっても例えば今年度それが重要であればグループホームに見学に行くという話も必要かもしれないです。

(日野委員)

・(部会長・高畑委員からグループホームについての要望を促されたのを受けて、) 私個人がグループホームについて特に要望を持っているというわけではありません。あくまでこれは連絡会、家族からの声で切実な問題はまずグループホームの不足や、その他の活動場所の確保のはずなのに、どうしてこんなに問題が矮小化されてしまったのかという意見がありました。私個人の要望で言ったらもっと色んなことがいっぱいあるのですが、私もアンケートに回答した者の一人として緊急時対応ということについては凄く重いものだと思っています。とても時間も労力もかかるものだと理解しているので、まずはアンケートを、回答を受け止めた責任というものをこの場でまずは果たしていくことを第一に考えるべきかと思っています。ただ、本当に個人的なことを申し上げますと私としてはまず障害者差別解消法に基づいて、障がいがあってもどこにでも参加できるということに本当にこの地域になっているか。そこで子どもが小さい時から成人に至るまで、卒業後に青年らしい活動がこの土地でできるかということです。それが学校というところを離れるといわゆる青年期の人間にとって一番切実な問題になるのではないかと実は考えています。個人的には、私にとっては一番重たいテーマです。それはそれとして、緊急時対応ということについては当然ながら地域生活支援拠点にも関わってくる問題だと思いますので、緊急時の課題をどう考えていくかということと関わって日常的な地域生活支援拠点について一歩でも前進するように、公的機関の方、事業所の方がいらっしゃる場ですので、それを常に考えつつ緊急時のテーマにあたっただけであればと思っています。

(北達委員)

・私も要望を言わせていただけるなら緊急時対応の時の色んなシステム作りというのは凄く大事だと思うのですが、結局はその時の受け皿がなければ周知がどうのこうのという話があっても、わかっても結局そこが肝心な時に受け入れてもらえない。その本人さんにとって選択肢として実際にその子が受け入れられないような場であってはいくらシステムとしてがちりあったとしても緊急時には結局意味がないということになります。

緊急ということが一番大きいですが、その他に置いても24時間365日障がいのある人の過ごしの場合、受け皿が、如何にたくさんあるかということが一番やっぱり凄く重要だと思います。

特にこの地域では日中一時の受け皿というのがあまりにも少ないです。児童にしても通所している人にしても月から金までの9時～16時であれば何とか対応ができるのですが、その後の時間であるとか土・日に受け皿が絶対的に足りないということがこの圏域においては物凄く大きな課題なのではないかという風に思います。それに向けて、各行政なり法人さんなりがどういう形でそこをアプローチしていけるのか。先程、おっしゃっていた地域生活支援拠点という意味においても、その人が過ごせる場、もちろん緊急の場の受け止め場所でもあるけれども、そこでその人が色んな社会と繋がったり、過ごし、余暇活動等、その人の色んな能力を発揮できるのか、そういう意味でも日中一時というのは単なるレスパイトや緊急の受け皿だけではなくてそこに求められるものも非常に大きいのかという風に思いますので、そのところもぜひこの部会で、何らかの対策や前進の案があれば良いなと凄く思っています。

(奥田副部会長)

・地域生活支援拠点については29年度中に市町ごと、もしくは圏域のひとつということです。今回、緊急時の対応についてというアンケートをとらせていただいた中でやはり連絡がつくところというのがひとつありましたし言われた

その時にどういう受け皿があるのかが問われているのだと感じているところです。市町の方が今後、行政さんの方で地域生活支援拠点については進めていただくのですがそれにあたって必要な情報やこうあってほしいみたいなのところが少しでも伝われば今回アンケートをとらせてもらって、まとめていく作業の中でそういうことができれば良いなあと感じているところです。

(高畑委員)

・ワーキングチームの中の線引きの問題ですが受け皿というか今言われた包括センターみたいな状態の時に今後、29年度、緊急の対応の拠点になるようなところでコールと言ったのも、私一年間考えてみたのですがそこにかけたからといって実際に対応されたらわかっていない方が対応されてもとんでもないことになるなということだけが一年掛けてわかってきた状況です。ただ言えるのはそこに例えば3障がいなり、重度障がいであれ、勉強していただいて共通認識を持っていただいて対応していただくようなセンター作りであれば受け皿としての形、向日市になくとも長岡京市にある、長岡京市になくとも京都市にある等の緊急の受け入れ先の情報交換ができるというようなシステム作り・連携作りみたいなものになれば良いなと思っています。去年言っていたのですが、サロンが欲しいと言ったのは人だと思えます。例えば、精神の場合だと事業所に行っている場合は事業所で計画支援もやっておられるので進んでいるので大丈夫です。困った時も事業所から行ったらすぐに例えばアスロードに行き、ショートステイに行っているのも大丈夫という話でスムーズに全部いきます。スムーズにいかないところと言ったら引きこもりの方で、初めはどこに入れたら良いのかわからないという問題と病院に行くほど悪いわけではないので預けるところがないという問題と訪問看護かという問題もあるのでその対応をきちんと周知しておいてもらわないとどこにかけたら良いのかわかりづらい。私が思うに事業所というのは一番だと思います。とことん究極の困りごとは、実際に行っておられる方にとっては事業所であり病院だと思います。でも、行かれていない方にとっての場所というのも物凄く必要な部分があるのではないかと思います。行かれていない方にとっても本当に例えばコミュニケーションが必要な人が病院に行っても子どもが診てもらえないから自分も一緒に病院に付いて行って一緒に入院するぐらいの気持ちがある方も知的障がいの方でもおられると思います。そういうことも含めてコミュニケーションの援助もあるということもそこに入れられるというのが周知の問題だと思うのでそういうシステムというのをワーキングチームをやりながらも少しずつ意見を聞いてもらってやっていくというのでワーキングチームの中に入れてもらっても良いかなと少し思ったりもしました。ただ、ワーキングチームをどういう風に進められるのかというのはお任せした方が良いかなという部分もあります。責任を持ってやっていただくという部分でお任せした方が良いかなとも思うのですが受け皿等色んなことを考えていった時に 意見としてこの場で言うということの良いのであればそれも良しかなと思うのですが、やはりワーキングチームをされた時にここだけ聞きたいからこの日だけは来てほしいというようなヒアリングのような場もあって、まとめの時にここはわからないから対応でQ&Aをやるのであれば家族が何を困っているのか、どういうシートにしたら良いのか等具体的にQ&Aができるという風なこともあるので、そういう対応いわゆる臨機応変な対応で事業所の範囲でなくて、他でわからない部分もあるところは聞こうという部分も多少あるかと思うので、そういう時に呼んでいただければどうかなということを思います。それは精神の方だけではなくて、たぶん知的障がいの方の方が比重は大きいと思います。その辺は検討していただきたいなと思います。それと、受け皿の話でサロン、知的であったり精神であったりする人が一緒に集えるような、協力し合えるようなところ、結局人間最後は人に頼るしかないというのか、やはりやってくれる人、頼める人に頼むしかないというのがあるので、やはりそれを如何に増やすか、サロンのものを如何に増やすかというので交流が出来るような地域生活交流センターみたいな交流ができる場がその拠点の中にあつたら良いなとやはり思うので、そういう論議も進めていただければありがたいなと思います。サロン作りをどういう形でやるかというのはこの論議では膨大すぎるので撤回しますけれども初めはそう思いました。昔だと共同作業所や養護学校の先生でも困った時には先生が連れて帰ったり、学校に置いたりということも過去あったと思います。作業所でも作業所所長が知的障がいの人を親が病気だと家に連れて帰られたり、精神も一緒にそういう事業所の方が連れて帰られたりということで自己犠牲ですがそういう形でフォローしているというのが一時期ありました。それは何故かと言ったらその対応がその人でないわからないという部分もあったからですが、この制度が充実してきてサービスができ、専門的な支援員、専門家が出てきたから今はだいぶ違う状況があるので、その辺の認識を一致していけばやはり受け皿と言ってもきちんとした受け皿がないということでは

なく、お互いに連携して検討できる、例えば老人のところで親の方は頼めないかとかとんでもない話かもしれませんが、サロンで夕食のサービスをされているところやお年寄りに公的なところが食事を500円でされていたりして、そういうところで交流ができれば良いという形で地域の孤独な老人の方がそこで食事をされている部分もあって、それと同じで精神であり知的である方もそういう場があれば良いかなと思います。そういう受け皿といっても大きな受け皿だけでなく、ちょっとした時に行けるような受け皿を場所をどこかの施設の受け皿の中にそういうスペースを設けていただく等そういう方法もあるかと思ったりしています。希望ではありますが、この場でついでに言わせていただきました。論議にはできないかと思いますが、長期的な話としてあっても良いかなと思います。

(奥田副部長)

・緊急時対応アンケートをまとめていく方向というところ、ワーキングチームで何をやるのかというところなのですがひとつはまとめのところにもやんわりとしか書いていないのですが、Q&Aというかこういうことで困った時はこういうサービスが使えるのではないかな等、ひとつは根本的に事業所が開いていない時間帯にどこに電話をしたら良いのか、それぞれの市町ということにはなっていると思うのですが、それを知らない人もいたというご意見があったということもあったので、一定どこに相談したら良いのかということについても何かまとめたものというかお配りができるようなものがあるかという意見もあったのですが、そのような方向でよろしいでしょうか。

(日野委員)

・実際にあがってきたアンケート結果を全く見ていないし一定整理をされましたが、ただこの整理はあまりにも簡単すぎて、この結論、継続的な検討ということの仮の結論だと思うのですが、どうしてこのような結論に至ったのかということも議事録に多少はあがっていたとは思いますが明確になっていません。明確化されていないまま、この整理の形だけがパッと出てきたので私としてはまずは生の回答を見ないと、先程言われたQ&AですがQに対するA、回答が本当に実質当事者にプラスになるもの、回答が出せるのかどうかということすら今わからない状態です。今、私や私の子どもやその周りの親子を見回した時になかなか実効性のある回答を得るのは難しいのではないかなという気がとつてもしています。今ここでQ&Aという風に端的な方向性を出していかれることには少し疑問を感じます。もうひとつ言わせていただくと私はこのアンケートをどう整理されていくのかということが明確にならないままアンケートが作成されて配布されたように受け止めています。違ったらすみません。例えば、とっても疑問だったのがこのアンケートが「無記名で出してください。」と最初に書いていたことです。何故、無記名なのか。理由はわからないのですが、私であれば記名強制はしないけれどもやはり実際に困った方にきちんとヒアリング、後追いのヒアリングだって有効かもしれません。こういう障がい者自立支援協議会という障がい者の生活にプラスになることをもちろん守秘義務をわきまえているメンバーで個人情報保護のために無記名というのは通らないと思います。おそらくこのアンケートでは将来的にずっと緊急時の不安を抱えておられる回答がきつとあがってきたであろうと思います。

なのに何故、無記名にしたのかは、やはりちょっと腑に落ちませんでした。だけど、こういう形式のアンケートを取ってしまった結果は仕方ありません。後追いで「誰ですか?」ということは追求できないわけですから。だけど私は当事者として、せめてこういう事例があがってきたというのはアンケートを回答した人達に開示されるべきだろうと思いました。一番何が今このアンケートにとって直接私達が一番メリットになることが何かと言ったら、普段意識していない緊急時、「こんなことがあるんだよ」ということを再確認することが一番自己防衛のために必要ではないかと思いました。だから、私はこの部会に所属している委員としてでなくても、アンケート結果は回答した一人として知りたいなと思いました。その個人情報については個人をもる特定できるような事象についてはそのままストレートに開示されるべきではないのかもしれないけれども、やはり自己防衛であるとか周りの支援者と共有していくためにどうすればあまり抵抗なく結果をオープンにして、全体のメリットにできるのかみたいなことは考えていければと思っています。

(奥田副部長)

・アンケートの中身を一度見ていただいてからでよろしいですか。当然、今言っていたようにアンケートを取りっぱなしで良いとは思っていません。アンケートを取るということに関しては色々な方が「緊急」という言葉を使うけれども、そうしたら「緊急って一体何なのだろうか。」「皆が同じ意味で使っているのだろうか。」というところと、あと緊急って言われている時に「今何ができているのか。」ということと「何が課題になっているのか。」というところを

把握して、そのことについて対応していく必要があるという風に、前回、去年度の1回目のところで「緊急」ということをあげていただいた時にそこをしっかりと向き合っていくということとアンケートを取っています。なかなか前年度の中では少しまとめが中途半端になっていたりとかというところがありますし、実体のあるものをいただいた方に対してお示しができていないというところがあるので、そこは27年度しっかりとやっていければという風に思います。

(部会長)

・ご意見をいただいている部分のところで実質、今年度どういう風に部会を進めていくのかということと議題の部分のところでどういうことを扱っていくのかということがあるのですが今出てきた部分のところの中ではアンケート、緊急時対応の部分のところが内容と進路、あとは地域生活拠点について、前回でも地域生活拠点のところでどういう風なものを作っていけるのか、そういう形を提案していけるような場であればというような意見も出ていました。2市1町の方も福祉計画の方も出ましたし、これから整備計画の方に移って行かれると思うのですが、その中で部会としてこういう風なものにすれば実現が可能ではないかということも含めて、なかなか行政の立場、ご家族の立場、事業所の立場、それぞれの立場で話をしているのですが、なかなかまとまらない部分のところが現状であります。そこら辺のところを如何にこの地域で住みやすい環境を作っていくために意見交換ができればと思います。提案、行政の部分のところでも計画にない部分のところはなかなか取り組みにくいという意見も聞くので、そういった部分のところでは各行政がどういったことに力を入れていくのかということも踏まえた上でご報告なり提案していただいた中でそれに向かって事業所は事業所で努力する部分のところとご家族はご家族のところでは困っている部分のところや早く整備してほしい部分のところが意見を言ってもらいながら調整していけるような部会にしていければという風には思います。先程からありますけれども24時間対応で電話をかけても結局対応してもらえない等のケースもありますし、今グループホームというのがあったとしても人手不足のために閉めている現状があります。そういった意味でヘルパー研修等の実施はしているのですが、なかなか人の面では大きな問題になっています。今年度については今までの時間帯を変更して、受講していただける方の受けやすい時間帯がいつなのかということも含めて時間変更をして実施の方の計画も組んでいたりしています。そういったところで色々工夫はしているのですがなかなか思い通りにいっていないというのが事業所の方の立場としてもあります。その中でひとつの事業所等が「これどうなっているのか。」みたいな部分のところで、うちも乙訓福祉会という法人の中でやっている部分のところがあつたのですが、なかなかそのところで一法人として出来ることというのも非常に限られているところもあるのでそこら辺のところは行政さんも含めて課題を共有した上でどういう風に進めていくのかということと協議できればという風には思っています。できるだけ地域生活拠点という部分のところ、緊急時対応のところも含まれると思いますのでそういった拠点をどういう風に作っていけるか、どういう形で作っていけるかという案作りみたいな、下作りみたいなところを今年度どこまでできるかわからないですが一案、二案、三案みたいな形で作っていければと思います。あと、「こういう形であれば事業所さんどうですか。」みたいな部分のところも話しできるような内容を今年度話しできればとこの間、前回の部会が終わって今日までの間考えているところがありました。あとはそれぞれの就労継続B型のアセスメントの問題や若竹苑さんのその後どうなっているのかというような就労状況の報告等も受けながら今年度部会としてやっていけたらと思います。アンケートのワーキングチームというのも線引きなしというご意見もあつたのですがこれだけのメンバーが集まるという人数調整というのが非常に難しいところもあつたので、前回も絞ってやっていたというところがあつたのでそこら辺のところはまた必要に応じて声かけをさせてもらいながら、ある中心になって話をしてもらおうメンバーは絞っておいた方が良かなとは思ってはいるのでその辺りのメンバー構成についてはまた事務局と相談しながら、させていただけたらという風に思います。今年度の中心課題というところはアンケートの整理、緊急時対応の部分のところと地域生活拠点についての部分のところと進路状況の報告等も入れていけたらという風には思っています。あと、またこれが終わった後に整理をした上でまた連絡の方をさせていただけたらと思います。この部会の議題というのは非常に多くありすぎて一度にあれもこれも手を付けても進まないということもありますので2市1町の福祉計画も踏まえながら今年度一番前に進みやすいものについて議題としてあげていければという風に思っています。

(北達委員)

「家族の緊急時」というのが今回主役なのですが、それプラスコミュニケーション支援事業が受けられる該当者なのか

どうかをインテークシートの項目の中に入れてほしいと思います。せっかくコミュニケーション支援事業がスタートしているのに、緊急時でただでさえ急いでいるのに、そもそもその方が該当するのかどうかというところでタイムラグがあるのはもったいないという意見があったので、そのところは早急に考慮していただきたいです。

(部会長)

・一番、行政に「どうですか？」と言うのが早いのですが、そういった部分のところもご意見としてお聞きしておきます。他にありますでしょうか。

(高畑委員)

・先程言われた地域生活拠点の案作りというのは具体的に他の行政等で何かあるのでしょうか。29年度に向けて何かあるのでしょうか。

(部会長)

・市町村、圏域の方には出ているのでそれをあとどう具体的にしていくのかというところを今2市1町の方の各市町でもっているのか圏域として話が出ているのかという部分のところは今の段階ではわからないので、そこら辺も踏まえてということのご報告もいただきながらやっていけたらという風には思います。

(高畑委員)

・報告をいただいて、ここで報告を聞ける場があるということですね。

(部会長)

・行政は行政で話をされていると思うのでそのところの部分がこちら側で話をしているのと、またこちら側で話をしているのがリンクしていないとなかなか形になっていかないと思うので、そこら辺は擦り合わせていく作業は必要かと思うので、そこら辺のところはどういう風に考えておられるのかというご意見も聞きたいなと思います。また、年間計画ということも含めて出していければと思うので、よろしくお願いします。

5. 向日が丘支援学校卒業生の進路希望状況の報告

(山田委員代理)

・資料の一番最後のところに卒業予定生徒数と利用サービスの見込み数についてということで書いているのですが、27年度今現在の高校3年生のこの集約は実は3月11日から16日に行われました進路相談1を基に作成をしており、6月22日から24日に進路相談2というのをさせていただいたのですが、それはまだここには載っていないので、申し訳ないのですが少し古い資料になります。今現在、この7月現在の状況で生活介護を報告させていただきますとひまわり園のつむぎに1名、それからワークに1名、クッキーに1名、乙訓楽苑に1名、スタンハート(京都市に転出される方)1名、若竹苑に1名、希望をされています。若竹苑につきましては一昨年も2名の方が強く希望されておりまして本校では先程の経過の報告にもあったのですが本人・保護者の方の希望をやはり尊重しながら、その方が卒業後生活をされる上で一番適していると言いますか、良い環境で過ごしていただけるというのを進路でも大切にしており、各事業所さんの方につきましては本当にそれぞれの事業所さんに良いところがあって皆さんそういう意味では自分の希望するところへ毎年進んでおられます。今後、介護の定員の空きが少なくなってきた中でここしか定員がないのでここしか行くところがありませんというのはやはり重度の方の進路選択にとってはこれは良くないという風に思っております。それぞれの事業所さんの良いところにやはりできるだけ進んでいただけたらということで保護者の方も進路部のPTAが中心になりまして、またアンケートの方を取らせていただき、そして特に若竹苑さんの今後につきまして定員を受け入れてほしいという希望については今後も強く希望されておられます。それから、ひまわり園さんにつきましては今回、ワークやクッキーといったところでの定員を考えていただけるということで就労継続のB型にしようか、生活介護にしようかという中で生活介護を希望された方もおられます。ということで今後また若干希望等、数が変わってくるころもあるかと思いますがそういう状況です。それで来年次年度の今現在2年生からやはり生活介護の方の状況を考えますと8名、その次の年が5名、その次が8名、その次が14名、見込みですが35名の生活介護を希望される方が控えておられます。本当にそういう部分では生活介護についてのことを実際に考えてくださっているのですが、特に小学部・中学部の保護者の方が大変不安に思っておられる状況もあります。また、できるだけ情報等をいただけたら大変ありが

たいと思っております。それからもうひとつ、これは生活介護ではなくてもう一点だけ就労就職のところでこの機会にお話をさせていただきたいことがあります。今までは支援学校卒業後すぐに就職を希望される方が多かったのですが、近年はステップアップということで、例えば就労継続のB型・A型から更に経験を積んで就職、移行支援もそうなのですが就職を希望されます。あるいは自立訓練、学びの場と言うことで京都市の北区にプエルタというところがありまして、2年間そこで本当に色々な学校生活では学べなかったような学習、色々なことを経験をされて、そしてその後また進路を決めていくというような学びの場にぜひともこの乙訓地域からそういった事業所を作ってほしいという要望が毎年のように保護者の方から出ております。昨年、雇用プロジェクト会議が、乙訓障がい者フェアがなくなったわけなのですが、そういったステップアップや自律訓練等の中身についても話し合えるような、そういった雇用プロジェクトに変わるような会議が、もし持っていたら大変ありがたいと思っております。以上です。

(部会長)

・ありがとうございます。また、進路状況や希望状況等を報告していただきながらということでよろしく願います。

(上田委員代理)

・今、こちらの表で生活介護希望が4名おられるのでしょうか。先生が口答でおっしゃってくださっていたのが、メモをとっていたのですが6名程おられたと思うのですが、生活介護希望は4名でしょうか。

(山田委員代理)

・27年6月という日付は6月1日現在といたしますか、進路相談1の3月のものを基に集約をしたもので、6月22日・24日に行われた進路相談等は実はこのカウントに活かされていません。それで、ひまわり園さんの方のワーク・クッキーといったお仕事についてはなかなか今までから希望される方もおられたのですが定員が厳しいといった状況も実はありました。この3年生につきましてはその方にもお願いができないかというお話をしたところ受け入れていただけるというそういうお話も実際あり、実習もさせていただくということで就労継続B型等移行に12名程のカウントがあったかと思いますが、その中の方がひまわり園さんのワーク・クッキーの方に希望を出されているということです。

(部会長)

・今のところは生活介護の希望が6名おられるということでB型の方の12名から2名がひまわり園の方に出されているということでよろしいですね。ありがとうございます。その他、何かありますでしょうか。事務局の方から何かありますでしょうか。

(事務局)

・レジュメの一番下に次回部会と先程からありましたワーキングチームの会議、この日程についてワーキングチームは次回部会でワーキングチームの話を煮詰めてから開催ということであれば、次回部会をできるだけ早い目に持っていた方が良いでしょうと思うのですが。

(奥田副部会長)

・ワーキングチームという形で来月にさせていただけたらと思います。ワーキングチームはあくまでもワーキングチームなので部会で確認いただかないと地域生活支援部会としてこのことについて協議して確認しましたということにはならないので部会についてはそのワーキングチームが終わった後ということでさせていただけたらと思います。日程については8月にワーキングチームを開催させていただいて、部会については9月に開催をさせていただくという形でのよろしいでしょうか。今日は欠席の方もおられますので確認させていただいて、またメール等で連絡させていただきたいと思っております。次回の部会の時には年間予定をお示しさせていただきたいと思っております。

(部会長)

・会議ですが今日は午前させていただいたのですが、午前が良い・午後が良い等があれば先にお知らせいただければと思います。特に、保護者委員さん、如何でしょうか。

(北達委員)

・午後は帰ってくる関係があるので、リミット3時半までなら大丈夫ですが延びる可能性があるなら午前の方が良いです。

(部会長)

・基本、午前中ということで、他の委員さんもすみませんが予定の方よろしくお願いします。今回はこれで終了させていただきます。ありがとうございました。